

# 国民健康保険の

# 広域化の見通しは

答 国もまだ事務レベルの段階である

**問** 平成30年度より都道府県は国保財政運営で広域化になる。進捗状況はどうか。

**副町長** 国は国保基盤強化協議会の事務レベルワーキンググループを設置した。そこで政省令事項など詳細を決めている状況である。県と町の協議等は行われていない。

どうなる国保会計の赤字

**問** 平成26年度決算で町の国民健康保険特別会計は約7億6000万円の赤字決算となった。国保財政に関する国の新たな支援策で27年度中



上原 喜代子 議員

に1700億円の低所得者支援費がある。沖縄県へは30億円の配分というが決定されたか。

**民生部長** 国全体で1700億円は決定された。各県に配分されるが、市町村ごとの金額はこれから決定される。

**問** 沖縄県は平成24年度にすでに国保赤字が100億円である。財政支援だけでは赤字解消どころではない。この件をどう考えるか。

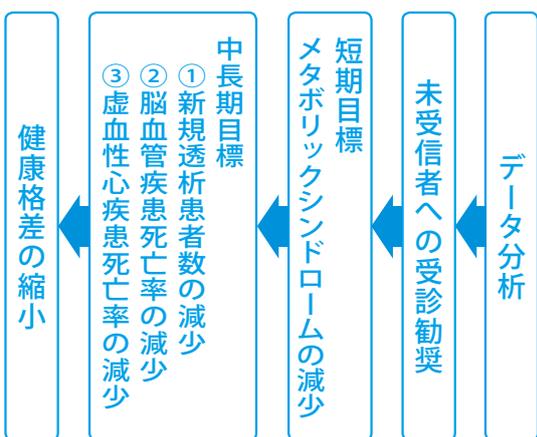
**民生部長** 国は1700億円の拡充をする。平成29年度からさらに1700億円を追加する。合計億3400億円の財政支援が行われる。追加交

付拡充が決定されると国全体では次第に赤字が解消されると試算される。しかし、沖縄県には独自の特殊事情がある。新たな財政措置や支援策を国へ要請しなければ、それだけでは足りないと考える。

**問** 平成25年度、26年度を比較すると国保赤字等の影響で町の財政調整基金は目減りが著しい。扶助費の伸び率も11%と高い数値である。さらに町債残高は約175億円もある。国保の赤字を抱えたまま平成30年までどう乗り切るか。

**副町長** 国の財政支援の拡充

を期待したい。町自身もデータヘルス事業の推移やジェネリック医薬品の使用促進等をしていく。医療費の適正化事業を推進していくことで国保財政の改善を図っていく。



データヘルス計画の目指す方向性

カンナで点を結ぶ景観を

**問** 点在する交差点(宮平学校線〜津嘉山公園予定地)に つながりを持たすよう、カンナの花を植栽できないか。

**副町長** 地域住民と協働で植栽し、つながりを持つ景観としたい。